



## 日航財団「JALスカラシッププログラム」 フィールドワーク参加交流生の受入れについて

### 【発表の要旨】

日航財団の主催する「JALスカラシッププログラム」に参加するアジア・オセアニアの大学生が日本への理解を深めるため、遠野市を訪れます。

### 【発表の内容】

#### 1 目的

アジア・オセアニアの大学生を日本に招待し、研修や文化交流を通じて日本への理解を深めてもらい、アジア・オセアニアとの交流を促進することを目的としています。当市の受入れは、平成 22 年度に続き 2 回目となります。

#### 2 期間

7 月 2 日（月）～ 4 日（水）

#### 3 来遠者

- (1) 交流生 21 人（中国 6 人、韓国 3 人、台湾 2 人、ベトナム 2 人、カンボジア 1 人、ラオス 1 人、マレーシア 1 人、フィリピン 1 人、シンガポール 1 人、タイ 1 人、日本 2 人）
- (2) スタッフ 6 人

#### 4 研修内容

- ・震災後方支援活動についての講話（7 月 2 日）
- ・遠野市立附馬牛小・中学校の児童生徒との交流学习（7 月 3 日）
- ・遠野ふるさと村の視察研修（7 月 3 日）

#### 5 スカラシッププログラムとは

##### (1) 発足に至る経緯

1970 年代初め、高度経済成長期の日本に対する批判がアジア各地で高まり、日本製品排斥運動や日本批判の嵐が吹き荒れていました。その中で、田中角栄元首相が 1974 年に日本航空特別便でアセアン諸国を訪問した際、タイやインドネシアで学生を中心とする反日デモに遭遇しました。

これを知った当時の日本航空社長（朝田静夫氏）は、日本航空が乗り入れているこの地域の若者に実際の日本の姿を見てもらえば相互理解を促進することができると考え、日本とアジアの友好のために、1975 年「JALスカラシッププログラム」を発足させました。

その後、オイルショックなど、厳しい経営状況の時期もありましたが、毎年継続しています。卒業生の中からマレーシアで大臣に就任した方が出るなど、多くの方々が各国各分野で活躍されています。（日本航空ホームページより）

(2) 昨年度までの参加者数

1975年度より毎年1回（1976年は2回）、2007年度以降は毎年2回実施し、本年度に43回目を迎えます。初年度は、香港、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポールから30人を招待し、昨年度までの総参加者数は1,452名にのびります。

**【2011年度までの国・地域別参加者数、及び2012年度参加予定者数】**

参加対象国・地域	参加期間	参加者数（累計）	本年度参加予定者数
フィリピン	1975～	145名	1人
シンガポール	1975～	150名	1人
マレーシア	1975～	146名	1人
インドネシア	1975～	145名	
香港	1975～	132名	1人
タイ	1976～	147名	1人
韓国	1981～	124名	3人
オーストラリア	1983～	76名	
ニュージーランド	1983～	51名	
中国	1985～	118名	5人
台湾	1991～	69名	2人
ベトナム	1992～	59名	2人
アメリカ	1977～91	64名	
ブラジル	1980～90	24名	
カンボジア	2011～	1名	1人
ラオス	2011～	1名	1人
合 計		1,452名	19人



2010年度の附馬牛小学校での交流学习の様子

担当	産業振興部商工観光課（紺野） 電話 0198-62-2111（内線 6205）
----	--